

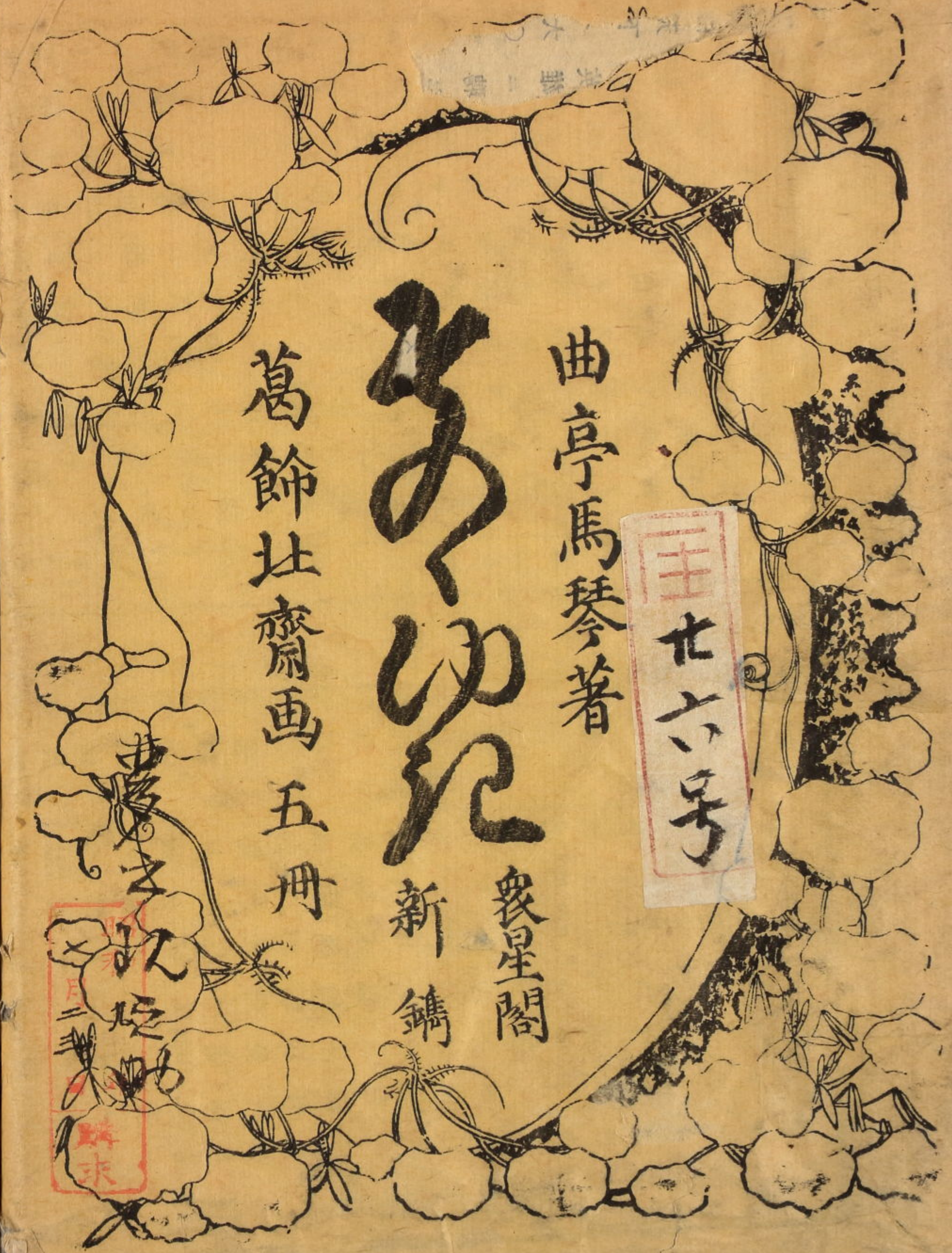
標
江
女
の
ゆ
丸

前

へ 13
3095
1



八三
3095
1-6



士七六号

曲亭馬琴著

女あゆみ

新鑄 衆星閣

葛飾北齋画五冊

女あゆみ
新鑄
衆星閣

人の世乃のいとは怪しむ夫帰行遅みへん筑摩は過り
 數ふえんといふ産靈のいざらむや親は別れ疎り
 逢ふ物乃哀れ誰らあらん仙境の桃花人間不
 散宮中けは葉溝渠小傳の亦是因と縁と不縁りん
 王牆小胡地乃恨あり小町め流水の歎らる佳入薄命
 いと多し。さか中ふるまを長夜あけ今昔はいつて物乃
 女あゆみ。賢婦は夫と諫め烈女の身は潔くし
 慈母の子あ教るる。又さあめがれせぬまはあある

この本の巻

標注のゆゑに前巻の総目録

巻一

虚實の夢

門の笑栗

巻二

伏見の橋居

清水の花笠

深草乃後契

巻三

深草の前契

垣根のぶら

別離のしる雨

巻四

雨後の樹下間

伏屋乃蚊遣火

今津れ走船

巻五

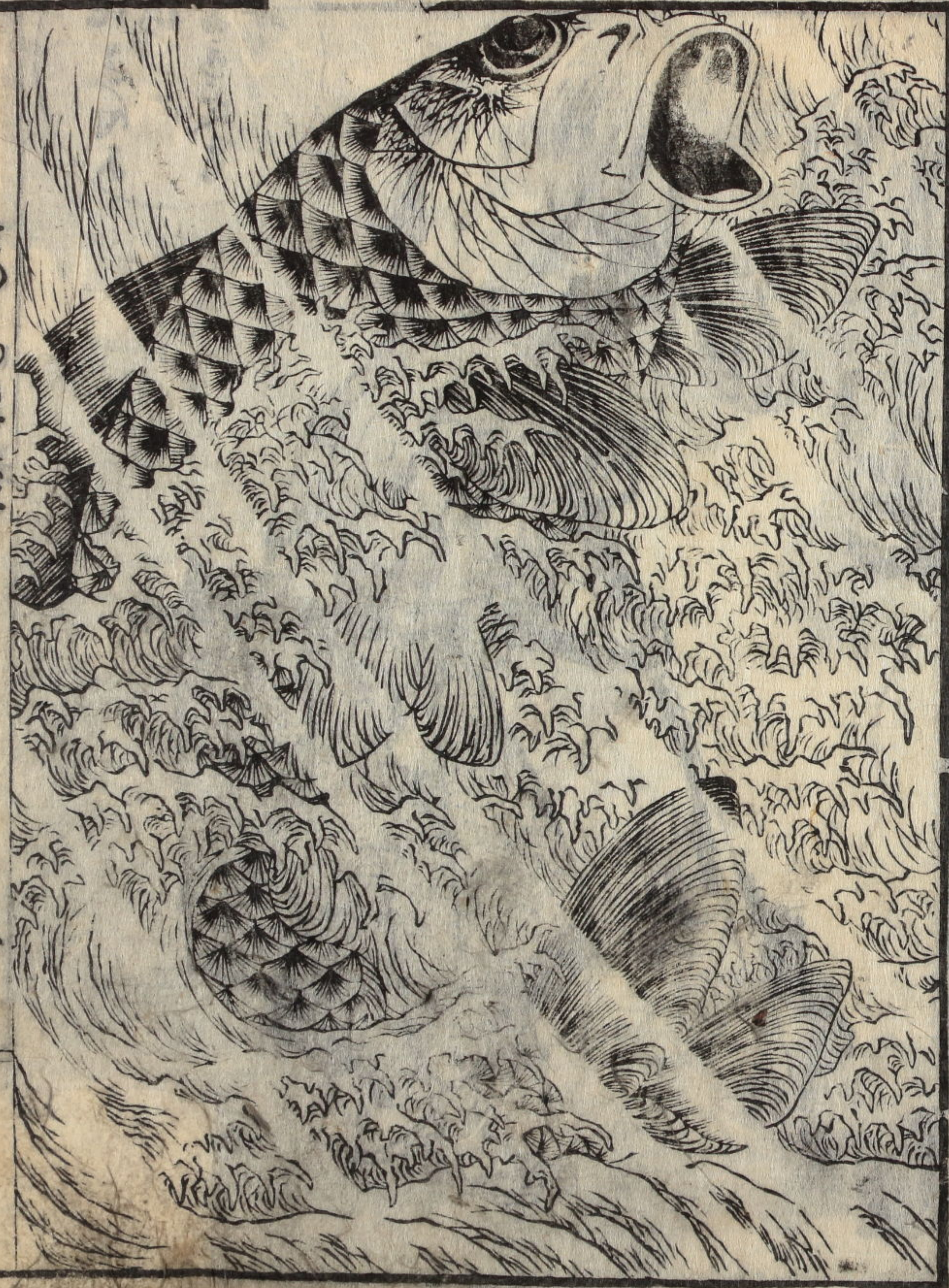
乞見れ酒りり

牛坂の仇撃

巻一

二

薄雪姫



幕の一園部



天生一物巧機多
織盡綾羅不用梭
獨自一身供一口
一身無奈一身何

卷一

實 雜 九



三 小 野 兼

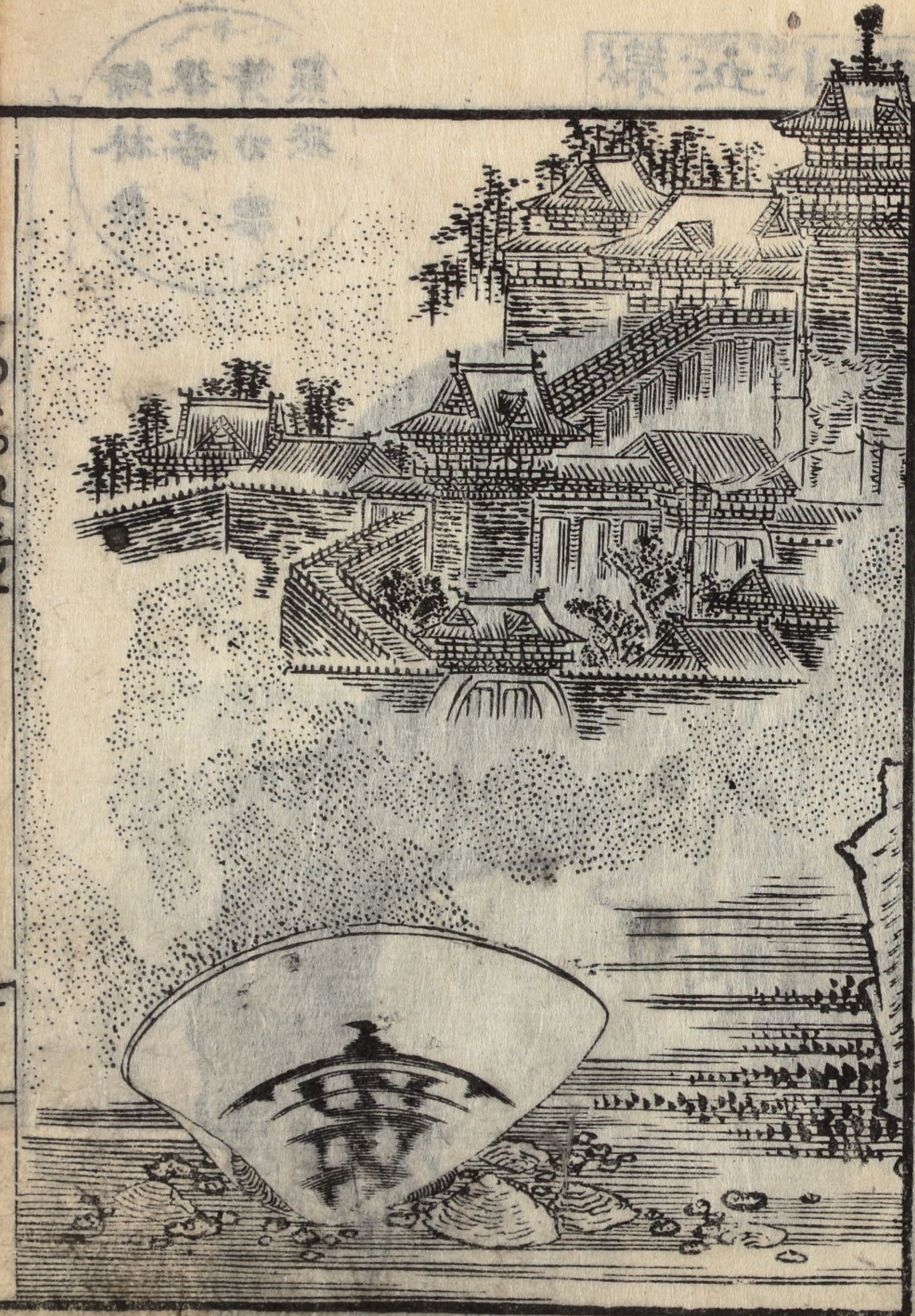


此作は河本
尚徳の
母の
名

河本尚徳

五

鎮丹波國水上市郎



第 四 郎 栗 門 二 郎

今 月 牒
 牒 序 用



天長二年二月二日
 鎮丹波國水上市郎
 篠峯石牛
 李海

天長二年二月二日

荒平太



第五小殿

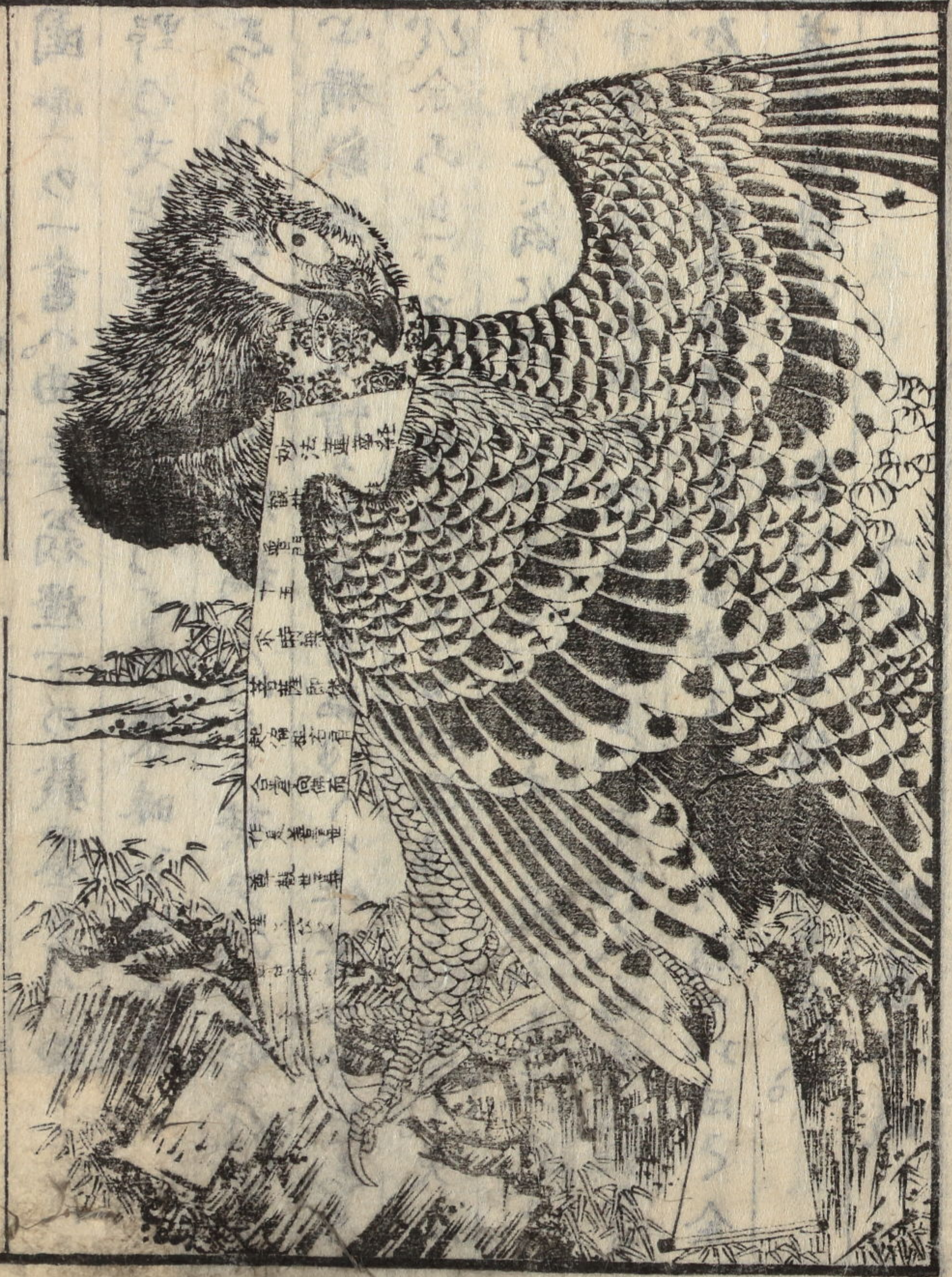


緑林帝
狼客
齊力
熊勝

熊力勝

七

女真子



第六義



方田 習 斐 八
寺 心 南 鏡
鏡 主 解 結 尺

女真子

園雪の一書ハ曲亭翁燈下の戯墨多ク曲々草
野の支を多せしむるも其味と誘ん為余
あつねども本来の腹稿をば禁せしむるが如し
心精辭綺多ク惜るを愚者おほくハ作者の勞とあ
び余もさぐ為ふ標注し其の品藻を稱述し更ふ
竹削と翁に求む翁笑て曰子も亦燕石を玉とじ
十襲をさるゝの歎所謂在人走とべ石ね人も
さるゝと遂ふ脩飾し書肆に投じ附驥の功成と余
雀躍ぬ堪べ因て數行を巻端に題すといふ

門人

魁蕃子識

魁蕃子
標記

世の情人

曲亭馬琴のくれ

虚實の夢

夫百年の夫婦ありて一世の情人稀なり。がらや花のりと暮ゆく
春風惜るもつら葉小園を山里とて早晩杜鵑の音を
待も峯のりふら夕日送しも山川の酒ゆくやなく芳々け取ふ
降もてはる雪の朝も又うらうら彼も愛られ小愛つて月日とも移り
くもあつねども易れりの人むらじ。さ未の松山浪ハ
越もさりと契しむる男女のうらひも山鳥の尾上隔るは
ふ柴のらるゝあつねども。歎もさるゝ人いひ遠ざるゝゆけが
互ふ飽ぬ別は浅く縁ありてとあひさるゝ異人ふ見ふあど

一世の情人
小説小詩
末の松山
陸奥あり
ふん奥支排
別注密勘
よるり
山鳥の尾上
万葉あり
あつねども
あつねども
あつねども
あつねども
あつねども
あつねども



偕老きわうの
 恨うらみを
 江前えまへ
 井い子こ投な



小野秋光おのあきみつ
 夢ゆめ小虎頭ここたう
 を得えく
 子こをまま

このゆかり巻一

十二

前

矢作

東鑑

持軍

元年

佐木

武藏

謀反

法師

左五

長二

即久

誅

母屋

正室

坐

と

つ

と

宗尊親王

の枝とつ女房は秋光が後の妻とて

賜りたるこの玉の枝と申はりの室治元年前將軍頼經卿京都

于てあひ企まつりゆののけしとて行法師小連累せりて滅せ

矢作九衛門尉が女見之秋光朝臣は元來督縁のり愿しめらる人

中薦てりる仰のめとを疑ひひらら私の趣意公述て固辞

容止の艶するものなりとて正しとて露らうも私

實稚九公愛慈するの實の子も超りあつらふ

おあつらひし秋光朝臣のり家隸老黨も滋江前あ遙小勝里

まひぬとて玉の方と稱へ敬ひ冊し等閑らる

の程めらる女子は産するの懐胎とて

玉の方もひら夜ふ柱を

とあつらひ十月あつら

怪れり往小滋江が實稚と産し

連続するは虚の字と

如いへの夢とんら

深屋と覆らとあ

とてい實の字と

生乃至陰陽錯誤

陰陽の所を得は

怪れり只顧るの女の高

事と行ふ虚言多く

虚子の又切

實を

孝順

類

宗尊親王

十

用

虚
手箱
大女
継次
座
と

あふ六代
時政 美時
兼久 経時
時頼 時宗

松殿僧正

兼久の乱
兼久三年
北條義時
俊鳥羽院
隱岐國に逃
順徳院と
佐渡國へ
つを同十月
又土御門院
と土佐國へ
遷す兼久
兼久不詳

る。空の艶麗なる。春の雪の梅花と裏る風情あり。そとと虚子し
ゆんハ似やはし。世の人々。薄雪姫とと稱り。わの影の生
け。文永三年の秋のじ。將軍宗尊親王。頃北條時宗朝臣と減ん
と。ひ。抑北條氏武家の執權たり。六代天下の
改大小。其家より出。將軍の号ハあり。も。あ
と。朽。弘長三年十月廿二日。時頼入道卒去
あ。又文永元年の八月。重時朝臣の弟。時宗。弱官
う。この時。要。密。松殿僧正良基。んと。集會
時宗誅伐の計策を仰。秋光朝臣の景迹。んと。う
親王の側。人の。君。今時宗一家を滅んと
謀。一天下の。又。一身の。や。往時

東
東の國
東を
稀
東門
史記
大夏
んと
唐山の常言

兼久の播乱。義時三院二宮と遠。嶋峰。遷。暴息
泰平の時。樂。石。足。り。は。く。の。つ。せ
り。昌平の代。乱。折。天下の爲。も。あ。權。松。あ。ん
と。危。臨。の。爲。も。あ。只。入。怒。の。松。起。と。石。の
軍。の。勝。利。の。ゆ。り。あ。ひ。と。う。の。し。と。と。あ。ん
面。犯。し。諫。り。も。更。小。諸。も。ひ。の。あ。く。ひ。定。り。ま。つ。も。色。の。た。び
秋。光。朝。臣。入。ん。せん。も。も。も。御。前。退。出。天。公。お。仰。り。と。太。や。も。息。公
先。帝。下。官。の。り。國。東。へ。下。し。の。ひ。の。親。王。公。補。佐。と。ら。ん。そ
る。公。忠。言。容。ん。と。は。東。門。子。公。も。亦。是。は。の。ま。あ。ん。ん。が
く。大。厦。の。壞。ん。と。一。木。の。柱。と。の。ら。ん。今。今。今

何有のた
 花子ふん
 月とらん
 時あらん
 おもひぬ
 高の小使
 八位ハ緑地
 入のふま
 侍とり
 世の中
 千我集
 ありの
 とく
 世の中

何有のた 御下掛びく 侍世の外 月公えんじ 子公兼仕公致らるる忠
 花子ふん 思ふらねど 怨地乱離の人 侍る公千載小遣ふの勝と
 月とらん 己さんや 冠公様と 御所の柱下掛を 頭髪公らんと
 時あらん 評の内子後 往方も 定めど 立出さ 被滋に 則世公あり
 おもひぬ 今より 十餘年 玉の方公 娶りし 士ら 多し 一旦 禍小
 高の小使 水く 妻子 別れし 設亡妻の 冤あら たり 色
 八位ハ緑地 善提の 種と 入る 法の 道の 業内 公の
 入のふま 程 終り 青侍 松光 朝臣の 尉と 前掛 たる 髪公 又 中い あり
 侍とり 世の中 此の 公少 宗尊 親王 警せ 侍の 件 尉公
 千我集 ありの 世の中 短冊 公結 び たり
 とく 世の中 世の中 世の中

イ
 松山本町三丁目
 貸本所
 野中栄三郎
 ヨ

